

東交大同窓会会報

第25号

平成十三年三月八日
 東京交通短期大学同窓会
 発行責任者 川島一郎
 編集責任者 西形伸次

後輩の成長を楽しみに！

同窓会会長 川島 一郎



年賀状を毎年一

二〇〇枚ほど書いて

いる。十一月に

入ると構想を練り、

デザインを頭に描

きながら通勤していた。また、プリントご

こを使用していた時は、技術的に無理なこ

とも多く、図柄を変更したり、印刷方法を

工夫したりしながら、十二月上旬の休日か

夜間に部屋中に広げて印刷をしていた。数年前からパソコンで年賀状を作るようになって、構想を考えるのは十二月になってからだし、パソコンで富士山など自由に描いて、形も色も変更も自由自在であることが本当に嬉しく思う。印刷は十二月二〇日頃から

パソコンに印刷セットしたまま寝てしまったり、セットして出勤したり、また、宛名を書きながら追加印刷したりと、時間や労苦が大幅に短縮され、かつ自由度が拡大し、電子メールやインターネットなども含め、改めてパソコンの威力に関心している。

年賀状の宛名は手書きすることに決めているので、クリスマス頃の五、六日間くらいは毎晩宛名書きに追われている。友人や親戚などに加えて、学校と会社の後輩にあたる、東京交通短大や昭和鉄道高校から、JR東日本に勤めている後輩四〇人ほどにも「東交大生頑張れ!」、「昭鉄生頑張れ!」の一言を書いて出している。「 駅に配属になりました」、「車掌になり東海道線に乗ってます」とか、「運転士試験に合格し研修に入っています」、「山手線の運転士として頑張ってます」など、それぞれ大きく成長している様子がわかる。昇進試験の勉強をして、試験合格後も長い研修でまた勉強し、学校の勉強とは異なる実務知識

を得て、成長を続けていることに心強く感じる。

JRになって採用が始まってからJR東日本に入社した平成採用と呼ばれている若い者も、既に運転士になっており、支社で運転指令や旅客指令員の重任を担っている者もいる。JR東海や東急、地下鉄、名古屋鉄道、関東鉄道など多くの鉄道で活躍している者も同様に頑張っている。

東交大卒業生の初期の大先輩方が六〇才台後半から七〇才台になり、現役をリタイアされていく中で、若い後輩達の成長を大変心強く楽しみに思っている。

(株)シェイアール東日本都市開発勤務)



二十一世紀と

短大創立五〇周年を迎えて

学長 廣岡 治哉



冬休みの間に書いた学生諸君のレポートを、昨日読んだばかりです。交通に関する三つの課題の中から自由に一題を選択して論じてもらったのですが、圧倒的に多かったのは、鉄道の将来について述べたものでした。多くの学生が、将来は高齢化社会になるので、高齢者が鉄道を利用しやすくするために、駅や車両などのバリアフリー化を進めるべきだと論じていました。短大の学生は、真面目で心やさしいし、鉄道に夢を持っていると思いました。

ところで少子高齢化が進むと、当然学校に進学する子供が減少してきます。その影響は短大、四年制大学にも及んでいきます。昨年の新入生が定員割れを起こした私立短大は、全体の六割に及ぶと報じられています。幸いに、近年の東京交通短大は、十分

な志願者に恵まれてきましたが、今後のことを考えると、樂觀は許されません。いまのうちに、教学改革を進めて、学校の魅力を高める必要があります。

そのためには、IT革命、情報社会化、グローバル化に対応した教学改革と就職・進学指導が重要になります。すでに教授会で議論を始めておりますが、来年三月の短大創立五〇周年をめざして、教授会外の方々にもご協力いただいで、議論を深め、改革を進めてゆきたいと思っております。同窓会の皆さんも、是非ご理解いただき、ご協力下さると有り難いと思っております。

新しい豊昭学園

理事長 阿部 敏彦



同窓会会員の皆様におかれましては、お元気で新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、学園も創立以来七十三年になりま

すが、この二〇世紀末は学園にとつてかなり凝縮した五年間であったと思えます。

七〇周年の記念行事として式典、祝賀会を挙行、新校舎の建設、加えて普通科、商業科の共学を実施し学園は三〇〇名を越える女子生徒で明るく活気づいております。

短大も小規模ながら平成九年三月には、学生ホール、図書館、閲覧室、研究室、部室棟、集会室等の増改築を行いました、十分ではありませんが以前より比べますと、施設、設備では改善されたのではないかと思っております。近いうちに短大二階の高校化学実験室も高校校舎に移設されますので、そのあとは短大で有効活用してもらいたいと思っております。

短大も冬の時代といわれており、全国的に見ましても四年制への統合や廃止など厳しい状況の中で、本学は「交通」を校名とする我が国唯一の短大として、特徴ある教育と精神を大切に守ってきたことが社会的な評価を受け、今日の発展につながっています。

今年の卒業生を含めると同窓生は二七七〇名を越えます。その中の多数の方が鉄道業界、交通業界で活躍されております。

短大は平成十四年に創立五〇周年を迎え

ます。何らかの形で同窓諸兄と旧交を温めたいと存じます。

この短大で生まれた人間関係の絆が、諸兄の心の支えとなり、また諸兄の助言がこの短大の存続を、発展を助けてくれるような関係ができあがることを期待しております。

卒業生や学生の皆さんへ

副学長 渡邊 一治



卒業生の皆さんそして在学中の学生の皆さん。毎日、頑張つて元気に努力していらっしゃいますか。

私も豊昭学園（交通短大を経営する学校法人）と御縁を頂いてから約五〇年弱、短大で授業を担当させて頂いて約三〇年余、最近、年月の経つのは早いものという感を深くしております。そのような中で私は、昨年四月から関根恒郎先生の後を引き継いで副学長の職を委ねられ、知識と経験の不

足を学園の諸先生方のお力添えにより何とか仕事をさせて頂いております。私のように古いことが必ずしも良いこととは考えておりませんが、古い卒業生の方達には知己の方もいらっしゃるかと考えますので、比較的、母校意識の稀薄さも感じられる短大をこれからは少しずつ変えて行きたいとも考えております。どうぞ、昔のよしみで折りがあれば、短大を訪ねてみてください。

もう、十数年も前になりますが、私の知り合いの警察官が、池袋警察の署長さんになられまして、警察署でお目にかかった時に、いろいろな話が出た後で、交通短大を含めて豊昭学園の在学生は、外から見ると

どんな風に見えるのですかとお尋ねしたところ、「時々ガードレールの上を歩くような、悪気のないいたずら生徒は居るようですが、全体から見ると、素直でおとなしい学生、生徒が多いようです。私の見聞きしているところでは、犯罪を犯すような人は居ないし、虞犯少年（犯罪を犯す危険のある少年）も居ないと思います」という御返事でしたので、思った通りだと自信を持ちました。

交通短大や豊昭学園の卒業生を含めて、天才的な学生とか頭抜けて頭の良い学生は

そんなに多い筈はないし、必ずしも社会はそのような人を要求して居ないように私は考えております。むしろ、真面目にコツコツと継続的に絶えず努力を重ねる人材こそが、社会から信頼され、これを支えて居るのだと信じております。目立つことよりは地味な不断の努力を続ける者こそが、小さな社会から大きな社会まで、いろいろなグープの中で信頼と尊敬を得ることのできる真の意味のエリートなのだと思っております。

目立つことよりは中身を見極め地味な努力を続ける態度、これが実は学園の信条である質実剛健という建学の精神にも合致することだと考えております。どうぞ、卒業生も在学生も健康こそが「成功の第一の条件」だという事を心に刻み込んで、頑張つて下さい。副学長就任のご挨拶に代えさせていただきます。



「同窓会」万歳!

学科長 小山 徹



世の中には種々の会が結成されておりますが、会費を納めただけでは会員にしてもらえない会に

「同窓会」があります。それは、時間的には前後していても、心の中の空間には同じ校舎の窓を共有して学んだという「きづな」がある同志的な集団です。同窓会には、いわゆる損得勘定をこえた人間関係のネットワークが平面的のみならず立体的に広がっており、同年代卒業者のみならず、先輩後輩という関係によっても会は構成されていきます。

学生時代には親しく交際していなかったのに、卒業後、何らかの契機で親友になることがありますし、また、まったく卒業年次が離れていて、見ず知らずの間柄であったとしても同窓生というだけで深い信頼関係が生まれ、お世話になることも少なくありません。

私たち一九三四年四月から一九三五年

三月の生まれは小学校に行っていない国民学校です。私は一回、転校して二国民学校に学びましたが、卒業していない方の国民学校の後身である小学校が都心部の過疎化で統合廃校になる日、同窓会の会員として招かれ感激しました。

中学は二回、転校して三校。卒業したのは名古屋の東海中学ですが、ここは中学の同窓会がなく、東海高校の同窓会と合体しています。それで、高校は明和高校を卒業して明和会の会員であります。同時に東海高校の同窓会にも入れてもらっています。

京都大学全体の同窓会はなく、電気工学科の洛友会と旧七帝大全体の同窓会である学士会の会員であり、「教職にあった者」の資格で群馬高専と埼玉大学経済学部同窓会にもなりました。

いやはや、「同窓会」万々歳です。みなさん、同窓会を大切にしましょう。



短大の近況について

副学長補佐 松岡 弘樹



同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のことと大慶に存じます。本年度も、短大の近況

について簡単にご報告させていただきます。一、新・退任教員について

本年度をもつて専任教員の福住美佐先生がご健康上の理由から、兼任教員の菊池暁雄先生、山本正男先生、中山英一郎先生が定年によりご退任されることとなりました。各先生方も長年に渡り短大の発展のために人力を尽くされ、その功績に感謝を申し上げると共に今後のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

また本年度より、新任教員として野村宏先生、秋葉明先生、青木真美先生、高橋賢一先生、水谷正大先生、井関文一先生、花山英治先生、小野寺理文先生が勤務されています。さらに、本学教授の渡邊先生が副学長として、埼玉大学名誉教授の小山先生

が学科長に就任されました。短大も少子化の影響により難しい時期に直面しており、各先生方の手腕が期待されます。

二、学校行事について

本年度の学校行事は、前期は、四月に入學式、オリエンテーション、五月に学外レクリエーション（ハタスポーツプラザにてボウリング大会及び東武バンケットホールにて懇親会）、七月にオーブンキャンパスの各行事を行いました。そして後期は、九月に東交祭、一〇月に交通見学会（碓氷峠の鉄道文化村見学）、十二月にゼミナール大会を実施し、三月に卒業式を予定しております。

三、時間割について

二〇〇一年度の時間割（案）・特別教養講座（案）が別表のように決まりました。例年ご案内いたしておりますが、特に、公開講座である特別教養講座への同窓会会員の皆様のご参加をお待ちいたしております。

最後に、先程も申し上げましたが、ここ数年短大も少子化、不況等の影響で非常に難しい局面を迎えており、同窓会員の皆様の一層のご協力、ご支援をお願いする次第です。

就職担当者から

就職部長 藤原 栄喜



卒業生の皆様は職場にてご活躍のことと存じます。

今年度の就職状況は昨年同様私鉄、東京都交通局などの採用中止事業所が多く、在校生は厳しい就職活動でした。この状況の下でJR東日本に二十一名の内定者を出すことができました。二十一名の内十二名が東京支社、四名が横浜支社、一名が八王子支社、一名がそれぞれ千葉支社、高崎支社でした。今年本校始まって以来、初めて女性一名の乗務員希望内定者が誕生しました。機会均等法の施行により女性の運転士が生まれる時代で、本校の学生も将来女性が増えることでしょう。

JR東日本以外では、東急電鉄一名、関東鉄道一名、営団地下鉄一名、鉄道以外の企業では十三名の学生が内定をいただいています（一月三〇日現在）。なお、編入学生については省略いたします。

本校生の就職内定率アップを図るため、在

校一年の就職活動の準備は、一〇月から一月末まで約一〇回の就職セミナーを実施しています。学生達は真剣に取り組み、約七割の在校生が社会人としての心得を勉強しています。仕事の責任感として、安全、時間厳守、お客様の快適さ、共同作業の中の自分の仕事達成について学んでいます。一月末には、企業の採用担当を迎えて就職セミナーを実施、学生達は就職活動の心得を学ぶことができました。

以上のような状況ですが、後輩達のために卒業生先輩達のご指導と、ご協力の程を切に期待する次第であります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

入試・広報便り

専任講師 沼田 憲治



平成十三年度入試についてご報告いたします。昨年十一月に行われた推薦入試（内部推薦を含む）

は、志願者七十二名中六十九名を合格と致

平成13年度 特別教養講座カリキュラム(案)

(土曜日) 18:25 ~ 19:40

(敬称略)*は本学卒業生

開講日	講演者		テーマ
4月14日	荻原 俊夫	東京急行電鉄(株)交通事業部鉄道部専門部長	東京急行電鉄の鉄軌道業について
4月21日	関根 恒郎	本学名誉教授	21世紀の日本を2001年に考える
4月28日	桜井 寛	鉄道写真家	ヨーロッパに学ぶ鉄道文化
5月12日	斉藤 順治	JR東日本(株)東京支社勤労部長	JR東日本の現状と採用の状況
5月19日	柴田 伊柵	新東京国際空港公団運用本部副主幹	首都圏における空港整備の現状
5月26日	野尻 俊明	流通経済大学教授	運輸事業の規制緩和の政策
6月2日	平田 一彦	東武鉄道(株)経営企画室課長	鉄道運賃の設定方式
6月9日	高橋 俊夫	拓殖大学副学長	企業環境と情報技術
6月16日	小池 滋	元東京女子大学教授	鉄道と文学
6月23日	菅 建彦	東日本鉄道文化財団専務理事	世界の中の日本の鉄道
6月30日	島田 啓子	帝京平成大学助教授	未定
7月7日	新井福之助	毎日新聞旅行史跡探訪専任講師	中世前期の歴史景観--鎌倉を例として当時の交通景観など
7月14日	西野 保行	元首都圏新都市鉄道(株)税務取締役	東京における地下鉄建設
9月22日	鈴木 順一	本学名誉教授	「転換期」における「つなぐサービス」
10月6日	*西形 伸次	情報処理学会会員サービス部門マネージャ	ITと鉄道
10月13日	神立 哲男	JR貨物企画部副部長	日本の鉄道貨物輸送の現状について
10月20日	成瀬 敏郎	東京情報大学教授	情報と法--サイバースペースにおけるリスク管理
10月27日	*川島 一郎	(株)ジェイアール東日本都市開発総務部担当部長	元気なJR東日本グループ
11月10日	数野 昌三	産能短期大学講師	旅行契約とトラブル
11月17日	森田 喬	法政大学教授	地図に見る交通
11月24日	久保 敏	三菱電機(株)交通事業部中国高速鉄道プロジェクトチーム室長	高速鉄道と鉄道システム
12月1日	川上 高昌	水戸短期大学講師	生き方と経営の原点についての一考察
1月12日	青木 栄一	駿河台大学教授	池袋・新宿・渋谷--鉄道が育てた副都心

特別教養講座は公開講座です。特に卒業生のみなさんは無料で聴講できます。
事前に短大事務局(03-3971-4704)へお問い合わせの上ぜひお越しください。

1年次					平成13年度 時間割表(案)					2年次
第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限		第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
2:20	3:40	5:00	6:25	7:45		2:20	3:40	5:00	6:25	7:45
ドイツ語 (大久保)	簿記論 (佐藤良)	交通関係 法規 (松岡)	法学 (渡邊)		月	観光事業 論 (小池)	経営管理 論 (安彦)	経営情報 論 (神谷)	欧米文化 論ゼミ (沼田)	民事法 ゼミ (渡邊)
歴史学 (安彦)		海外旅行 実務論 (勝岡)					サービス 産業論 (小池)		交通判例 分析ゼミ (松岡)	交通論ゼ ミ (小山)
保健体育 論 (坂口)	統計学 (岡本)	交通経済 学 (上遠野)	環境科学 概論 (中村)		火		国際観光 論 (井上浩)	英語 (井上浩)	自動車 交通論 (上遠野)	
	(前期集中) 旅行業務 論 (福地)		仏語 (沼田)					(後期) 都市計画 論 (高橋)		
哲学 (篠原)	交通経営 学 (秋山)	文学 (沼田)	英語 (小池)		水	鉄道シス テム工学 (小山)	観光地理 研究 (市川)	海運論 (山岸)	交通政策 論 (植村)	
観光地理 (市川)	(前期集中) 旅行業務 論 (福地)						物的流通 論 (野村)	都市・地 域交通論 ゼミ (秋山)		
英語 (廣岡)	中国語 (謝黄)	コンピュ ータ実習 (小坂)	情報概論 (水谷) (井関)		木	経営法学 (松岡)	鉄道運転 論 (安藤)	原書講読 (長谷川)	基礎経済 学ゼミ (亀川)	
		経営学 (亀川)						(後期) 海外鉄道 論 (青木)	コンピュ ータ実習 (小坂)	
	心理学 (兼高)	交通概論 (小山)	体育実技 (坂東)		金			旅行論 ゼミ (井上博)	ホテル 事業論 (石隈)	
	観光学 概論 (井上)							交通史 (斉藤)	(前期) 通信概論 (花山)	
経済学 (長谷川)	自然科学 概論 (佐藤信)	交通技術 論 (樋口) (三島) (台木) (住田)	特別教養 講座 (松岡) (沼田)		土		社会政策 研究ゼミ (長谷川)	(前期) 鉄道経済 論 (後期) 航空経済 論 (秋葉)	英語 (秋葉)	

しました。昨年より志願者数で二十五名の減少、合格者数で十五名の減少です。内部推薦志願者減少（十名減）が大きかったのですが、それにしても推薦の段階で志願者二十五名減というのは、説明会への参加者が昨年を大きく上回っていたことを考えると、予想をはるかに超える数字でした。志願者の減少傾向は、二月一日に行われた一般入試でも歯止めがかかることなく、志願者四十八名、合格者四十六名という結果でした。現時点で推薦入試合格者六十九名全員入学手続が済んでおりますが、一般合格者は数名辞退者が出ることが予想されます（全員が手続きしたとしても定員に二名不足）。まさに緊急事態であり、急遽三月七日二次募集入試を実施することにしました。

全国的に少子化の影響で定員割れを起こす短大が増え、ついに募集停止に踏み切った所も出始めていることは新聞等で報じられている通りです。本学はそのユニーク性のため「鉄道ファン」という一定の志願者を見込める強みがあると思われませんが、二年連続志願者大幅減少の現実を目の当たりにして、いつまでも安閑としてはいられません。限られた予算で何とか効果的な宣伝活動をと、インターネット利用などに力を入れ始めているところ

です（現在、交通短大の紹介は、<http://www.10-age.com/>など見られます）もちろん、カリキュラムの再編成など魅力的な短大づくりが必要不可欠なことは言うまでもありません。

広報関係からは、昨年の会報でご報告したとおり、ついに短大のホームページが仕上がりました。しかし、HP開設に至るまでの道のりは決して平坦ではありませんでした。「仮免」時代が思いのほか長く、本稼働したのは昨年秋のこと。原案から作成段階に移行する際の引き継ぎの不徹底、学園として意思の不統一、パソコン担当者の突然の退職、と次々と襲いかかる困難のなかで、広報担当の私がホームページの正確なアドレスを掴めないという、ちよつと笑えない事態まで発生するに至ったのです（実際、昨年の『オンライン』で発表したアドレスは間違っていました。皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。この場を借りて、深くお詫びいたします）。ただ、つい数年前まで、短大でインターネットを利用することなど夢物語に過ぎなかったことを思えば、これでも大いなる前進であるという気がします。

いずれにしろ、インターネット環境下で

のスタッフ不足は深刻です。ようやく卒業生の遠藤裕生さんの献身的なご協力により、ページの更新が可能になりましたが、まだまだ、工事中の画面が多く、充実した内容には程遠いものがあります。しかし、本学のようなミニ短大が生き残るには、ソフト面での充実しないと肝に銘じ、早急に改善に向けて努力していきたいと思っております。この点でも、入学生募集と合わせ、会員の皆様のご協力をお願いいたします。最後に各種アドレスを載せておきますので、皆様どんどんアクセスしてみてください。ご意見、ご感想をお待ちしております。

インターネットURL

東京交通短期大学公式ホームページ

<http://www.hosho.ac.jp/toukou/>

日本私立短期大学協会「短大ナビ」内ホームページ

<http://www.tandai.or.jp/kotsu/>

E mail

短大代表 kotsu@hosho.ac.jp

入試関係 nyushi-k@hosho.ac.jp

沼田憲治 numata@hosho.ac.jp

会員解放区

夫婦の桜

第五回生 篠崎 正人



五年前はじめて植樹した“夫婦の桜”は今年も元気で美しい花を咲かせてくれるだろう。いままでは会社人間として日夜懸命に働き、我が国の高度成長期を支えてきた。しかし、定年少し前、胃ガンを病い入院した。幸い元気になり第二の人生を迎えるにあたり、その出発記念にと植えたのが夫婦の桜だった。

全国からそれぞれの思いをもって植樹に集い、一泊二日の行程で種々のイベントがあり、百組の夫婦と総勢三三〇名余りの人々と交流を楽しむことの出来る場である。遊び心でそれぞれ手作りの名刺交換等もやっている。ある人は「金儲けより人儲け」と言っている通り、いろいろな人との出会い

を楽しんでいるこの頃である。

一本目は和歌山の高野山へ植え「夫婦一人桜」と銘名し、二本目は同右高野山大学「くに桜」を、三本目は京都の哲学の道起点にある若王子神社で「正芳・優花孫桜」。四本目は同右に「尚吾・由紀子結婚記念桜」。五本目は京都鞍馬山近く花背へ「旧婚桜」。

六本目は長野南木曾温泉「ミレニアム桜・友子六〇才萌恵誕生」。毎年夫婦そろって元気で暮らせる証にこれからも続けたい。

今年八月十八日に母が米寿を迎えるので一族曾孫まで二〇名妻籠宿の近く南木曾温泉で“米寿祝桜”を記念に植え、皆でお祝いすることになっている。やがて孫、曾孫が成長し、それぞれの地に離れても時折思い出し訪れてくれたら良いと願っている。

(前東武百貨店)



ツデイ イズ ベスト

第五回生 荒井 久夫



新しい年が明け、新たな一〇〇年に向けて歴史の歯車が回り始めました。東交大卒業以来四

〇数年が経ちました。国鉄現業機関で働きながらの二年間は、仕事と眠気と戦う辛い毎日でしたが今は懐かしく想い出されます。国鉄、JRと鉄道生活三〇数年を経て、(株)ジェイアール東日本都市開発に平成二年入社し、主にショッピングセンターの販売促進業務につき、平成十一年から同社の子会社である、葉高商事(株)の責任者として経営に日夜励んでおります。

葉高商事(株)は、駅周辺の駐車場の管理、ショッピングセンターの清掃、保安業務や飲食店を中心とした店舗の管理運営が主な業務です。社員パートを含め、一二〇名で収益の拡大に向けて頑張っております。おかげさまで景気低迷の中、数年来右肩上がりの収益を上げております。

平成八年、建設費四〇数億円、増床面積約千坪の社運を賭けたショッピングセンターの改装を、テナントの入退店、リーシングの責任者として実施いたしました。当時不況下の中で、集客力があり、知名度の高い一流テナントは、入店条件が進展せず大変苦勞いたしました。そこで得た教訓は「ツディ イズ ベスト」です。タイムアップ寸前までベストを追求する。これは事業採算性即黒字の飽くなき追求が社是でもありました。人生の道しるべともなる貴重な経験でした。これからも「ツディ イズ ベスト」の心意気で残された人生を歩んでいきたいと思えます。

(葉高商事株代表取締役社長)

節目

第七回生 神尾 浩

小学校から中学校へ、冬から春へ、学生から社会人へ、転職、転居。人の生涯には種々の節目がある。節は暦で云う季節の変わり目が語源であろう。昨今は二〇世

紀から二十一世紀への節目といえる。

人間は節目に遭遇したとき、希望を抱き現状より良い方向に進むことを期待するのが定例となっている。世紀の節目は希望に満ちた、定例通りに展開しているだろうか？今節の世紀末は、金融破綻、政治腐敗、自然災害、企業倒産、少子高齢化、モラル崩壊、少年犯罪頻発等々暗いイメージが先行しているのが現状である。

人口はその国の社会や文明の基本要素である。我が日本国においては少子化が進行中であるが、国家ぐるみで問題化することもあるまい。少年時代「日本は人口が多く、国土が狭く、資源の乏しい国だ」と教えられた。穀物自給率は目下二十七%、人口一億二、六〇〇万人、毎年丙午年並（レニウマツン）の出生率が続き、二〇〇五年より人口減少開始となる。一世代三〇年として百年後には二〇〇〇万人となる。

少子化の主原因は生活水準の維持と推測されるが、これは文化、文明が安定している社会における人口の事前制御装置が作動した正常な現象である。近い将来食料完全自給、都市混在緩和、高地価高家賃の解消、職業選択拡大教育の深度化等々良いことづくめである。

過渡期における高齢者増の問題をどうするか、高齢者が全員寝たきり老人でもあるまい。生産効率を上げ、高齢者の活用とともに社会保険システムを改良すれば解決する。我々の孫達は過激な競争にさらされず、のびのびと人生を送ることだろう。

(青梅市民会館勤務)

鉄道員(ぼつぼや)

第七回生 宮本 茂

同窓生の皆様二〇〇一年明けましておめでとございます。良い新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。私も卒業して早四〇有余年の歳月が経ちました。しかし、母校の元気な姿は、卒業生には大変嬉しいものです。

先日事務局から、例年により同窓会会報を発行するから、「レポート」を頼むとの要請がありました。実は私、現在体調を崩しておりまして外来通院をしている身ですが、幸いにして回復に向かっていますのでご安心下さい。それで「レポート」をと

のことで思案しましたが、折角のことだからお引き受けをし、一寸ばかりマクラ言葉を書きますのでその点何とぞご容赦下さい。

「鉄道員(ぼつばや)」映画。私には、あまりにも聞き慣れた言葉で初めの頃は、一寸ばかりくすぐつたいような気もしました。自身長年国鉄に勤めたせいかもしれませんが、今でもこの映画の場面が私の脳裏から浮かんで消え、消えては浮かんできます。

この映画は、北海道の小さな駅に生真面目に、また、ひたすらまっすぐに鉄道一筋の人生を送る駅員の物語です。一人娘を亡くした日、愛する妻を亡くした日も降り続く雪の中駅員は遅れている汽車を待ち、立ち続けています。この駅員こそ今年で定年を迎える「ローカル線」の駅長です。駅長の娘と妻を亡くした苦しい悔恨は、自分の心の奥に宿っていたのでしょうか。氷点下何十度という極寒のホームに立つ駅長の姿は、自分自身に厳しい罰を与えているかのようでした。ある日、突然愛らしい少女が駅長のもとにやってきます。笑顔で話す少女の手には、人形が抱かれています。私は、何気ない出来事のように思えたこの少女との出会いこそ、孤独な駅長の人生に訪れたやさしい奇蹟の物語だと思っています。

名俳優高倉健・大竹しのぶ主演のこの映画こそ涙と笑いなくしては、決してみられない映画です。時は二十一世紀にバトンタッチされましたが、その節目にふさわしい感動巨編だと思っています。いずれ再演されれば、交通短大卒業生として見学されるのも良いのではないのでしょうか。

まとまりのない文となりましたが悪しからず。東京交通短期大学の益々の発展を祈念して失礼いたします。

(無職)

光陰矢の如し

第七回生

小熊 昭治

もう、母校卒業以来随分長い月日が経過した。池袋東上線で母校に通い、二年間が瞬く間に過ぎ、卒業と同時に北海道の故郷に帰った。

小生の故郷は道東の襟裳岬の村落である。小生の祖父は新潟県の柏崎で柴田藩の流れを汲むと聞く。一度新潟に行ってみようかと思うが、なかなか出来ない。勿論北海道

は時の国の施策により、屯田兵などいろいろな立場の先達が本州の各地から道内に移住し、北の守人として、北の開拓者として、その生涯をこの大地に捧げた。

私は日々これらの先達の老若男女の生涯に多大な感謝と、その一生涯のありように学ばなくてはと思い、その足跡と語りべからの日々を思い起こして、微力ながらその労苦を無駄にしまいと今日まで生活し行動をしてきました。

本州から来て最初に到着するところ、それは小樽であつたと聞く。石狩川の本支流を渡り、小舟などで先住民アイヌの人々からの応援やら手伝いを受けそれぞれの目的地に挑んだ。その心情を察するに、頭を下げても下げたりないだろう。これらのことは「石狩川」「十勝平野」「菜の花の沖」等々小説家によつて、小説化されているので、渡道されるときは一読されて懐古心をもつてこられることを、この一章をお借りして加筆します。

さて母校での二年間はどんな印象で残っているだろう。まず勤労学生が多く多少日中のお勤めの疲れを背負いながらも、教授先生諸氏の講義に全神経と若さをぶつけている姿勢を今でもはっきりと憶えている。

小生のように交通関係に進まず建築方面に進んでいる方もいることだろう。小生は以来二〇有余年これらで生計を立て、道は違っても学んだ二年間の勉強を時々想い出して応用しているし、母校を心から誇りに思っている。東京交通短期大学の母校に集う諸君「少年老易学難成」という。現実も目の前にある。後輩諸氏の若さと真剣な努力が種々の難関を克服するだろう。

母校の皆々様、諸先生、お世話になりました。

(自営業)

環境問題

第三十一回生 中島 秀和

ゴミや汚泥を焼却するときに出る廃熱を利用して、暖房や給湯、発電などが行なわれていることがある。本来は棄てるはずのものを有効利用しようというのであるから、省エネルギーという面からみてよいことである。だからといって、ゴミを沢山出して

ミは出ないことがいいことなのである。しかし、人間が生活していく上で出てしまうのである。仕方がないから焼却などの方法で処分しているに過ぎない。その時の焼却熱が勿体ないから利用しているのである。

ゴミ焼却場や汚泥処理場では、廃熱を利用して地域の施設に給湯を行なっていたり発電を行なっているところもある。それをもって、地域に密着したとか、環境にやさしいなどといっていることがある。しかしそれは環境に優しいのではない。焼却していること自体がすでに公害発生源であることは少し考えたらわかることである。省エネルギーに少し貢献しているからといって、「環境に優しい」は言い過ぎである。せいぜい、「環境への影響を少し減らした」程度にしかみえないのである。リサイクルも同様である。再生紙を使ったからといって、環境に優しいわけではないのである。むしろ、原料パルプからつくるよりも、石油などのエネルギーを大量に使うし、水質汚濁の原因にもなっている。リサイクルが環境悪化になっている一例である。

二十一世紀になった今、本当の意味での環境問題を考える必要があるのではないだろうか。

政治結社たぢま会

第四十一回生 倉持 健

最初にお断りしておく。この名前は危険で右や左に翼の生えた団体ではない。勿論、その様な目的で作られた団体でないことも付け加えておく。

私たちが無事に？卒業してから、各方面、各分野にわたり、各地へ散らばっていったのだが、在学中より皆でスキー旅行に行き、それがそのまま卒業後、幹事も宿もそのまに、まもなく卒業してから八回目のスキー旅行を迎える。冒頭の名称は一部の四十一回生を主体とした、ほぼ同期会と化した団体である。在学中は一滴も飲めなかつたヤツが今は一、二を争うくらいに酒豪になっていたり、卒業時の商売からは二度三度、鞍替えしたヤツもいて、本当に色々有るなあと思う。卒業してから一度も会っていない人達も元気なのだろうか？

さてさて、話はたちま会に戻そう。これがまた、よくもまあ、と言つくりの大会となる。しかも、場所はまちまちである。手前味噌ではあるが、去年の、私の結婚披

露(疲労?)宴の時は、あの席だけは飲み方が尋常ではなかった様に見えた。普段あの団体の中で一番騒がしいのも自分なのだが。

。それが、新潟県のスキー場の宿である。場所柄、日本酒はイけるし、ビールなどは一ケースぐらいいは簡単に空いてしまう。近年ではスキーよりも宴会に重点が移ってきてしまい、宿のおばちゃんに「宿変えたらア？」と、軽口まで言われるようになってしまった。勿論、冗談の域は出ないが。

毎年、このスキー旅行(宴会旅行ではない、敢えて)の度に、時刻表を買い、ルートを探すが、在学中に勉強した(本当か?)日本の交通網の発達により、私が住む愛知県からは、僅か三時間弱の所要時間で、越後中里駅に着ける様になった。ただし、のぞみとあさひを乗り継ぐので、新幹線の速さ以上に、財布の中身も飛んで行く。ま、クサつても社会人である。時間は金で解決するでしょう。発泡酒飲んで。

世の中、IT化が進み、我が政治結社たぢま会にも、その波は着実に訪れ、たぢま会はホームページ上はその姿を現しました。(アドレスは非公開)名古屋、関東間でも瞬時にして双方向通信ができ、距離を感じさせません。何よりもホームページ上では、

みんなまでの距離が等しくなります。こんな感じの同期で、いまだに仲良く遊んで貰っています。たまには乗務員のお仕事をこごとと並べないのも有りかな。なんて思い、思いつくままに書き綴ったらこんなになってしまいました。

最後にですが、私は交通短大に入って、こんなにも人の輪が広がり、自分の考えが人間が、こうも変わるとは思っていませんでした。これは、高卒では味わえないことだと思っています。皆さんも堂々と言いましよう。自分は交通短大卒業である」と。

(名古屋鉄道(株)名古屋車掌区勤務)

運転士になるまで

第四十二回生 高橋 隆行



私は今、東日本旅客鉄道(株)に勤務しています。駅、車掌を経て、現在田端運転所に勤務し、主に宇

都宮線の普通電車、北斗星、カシオペア、

はくつるに乗務しています。以前は、大宮運転区にて埼京・川越線に乗務していましたが、平成十二年十二月に、田端運転所に配属になりました。前記でも述べたように田端運転所というところは、電車の他に機関車にも乗務します。今、一人乗務が出来るように機関車の構造、運転を勉強しています。鉄道はお客様を安全に正確に目的地まで送り届けなければいけません。そのためには常に冷静な判断をしなければいけません。運転士になるには、運転士試験を受けて合格後約四ヶ月間学科講習を受け、運転に必要な車両の構造、信号、線路等を勉強します。学科試験に合格後、各運転区に配属になり、約六ヶ月間の実技講習に入ります。その間に運転、ブレーキ扱い、出区点検等実技試験に向けて習得し、実技試験に合格後免許証の交付を経て運転士として一人乗務をします。約一年近くの講習と実技が運転士になるためのステップです。

東日本に入社を考えている人は、電車の運転をしてみたいと思っっている方が多いと思います。自分の夢・希望を持ってさらなる学習をして頑張ってください。

(東日本旅客鉄道(株)勤務)

時間の旅

第四十五回生 神田 聡



皆様お休みはいかがお過ごしですか。昨今の我が国の状況から、休みが取れない！という方もいらっしゃるかもしれません。時には、有効に使用わなくてはもったいない。とよく言われる時間という奴と対話してみるというのもおつなものです。

私はここ五年くらい長野県蓼科の、ある山荘にお世話になってます。(実はこの原稿もそこで書きました。)三〇回以上来ているでしょうか。周辺には観光地が腐るほどあるのですが、私はあえてどこへも出かけず、宿で過ごします。昼過ぎぐらいに宿へ着いたら何もしないでポーっとして、風呂に入り、うまい空気と水で、すえた都会の匂いを落とし、気のいい宿の主人と酒を酌み交わしながら晩飯を食い、無音の中で朝まで心地よい眠りにつく。一日二十四時間がこんなにも長いのか。仕事をしてい

ると忘れてしまっている時、まさに「明日への活力を養う」ためにはうつつけの時間を過ごせるところです。時間と対話する。それはまさしく自分と対話することに他なりません。非現実に近いところで今までの生活を精算し、明日からまた少し新しい自分をつくって、いつもの生活を続けます。皆さんも時に時間(自分)と対話する旅をしてみませんか。何もなただそこにあるのはゆっくりと流れる時間。そんな旅へ。

(株)日本レストランシステム

地鶏やルミネ立川店勤務)

後部運転室より願う事

第四十五回生 泉 隆明



昨年(一九九〇年)の二月二十一日小雪が舞う寒い朝の出来事である。乗務前に胸騒ぎがした。そろそろ次の駅だ。と聞いていたとき、防護無線が鳴り響いた。直後非常ブレーキが動作し、緊

急停止した。「朝っぱらから、防護無線なんか鳴らすのはこの乗務員だ」とイライラしていたら、自分の列車が自動車と衝突したという事実を運転士から知らされた。すぐに現場を確認しに行くと、ボンネットがくの字になった車が線路脇にあった。運転していたのはこの春高校を卒業する、十八の少年であった。少年に事情聴取をしているうちに警察が到着し、現場は任す事にして列車に戻った。警察から事故原因を詳しくは聞かなかつたが、シャーベット上の雪が路面にあり、吹雪で見通しが悪く踏切が鳴動しているのに気が付くのが遅れ、急ブレーキを踏んだものの滑走し、踏切内にとつな事らしい。人生をめちゃめちゃにしてしまい、どうしようも落ち込んだ彼の表情が今でも忘れられない。乗務前の胸騒ぎはこの事の予兆だったのであろう。

当社では、踏切事故○運動を実施しているが、それでも、踏切事故は無くならない。それは自動車を運転するドライバー、一人一人のモラルが大きくかわっているからである。踏切前で一時停止をおろそかにしている人、無視して突っ切っている人悪い事は言わないから今すぐ止めなさい。

(JR東日本新津運輸区勤務)

これからJRマンをめざす皆様へ

第四十六回生 石井 光太郎



皆さん初めまして。卒業後JRに入社し、現在東海道線の車掌として毎日乗務しております。

在学中の皆さんはおそらく私みたいなJRに入社し、乗務員として働くことを夢見ている方が大多数だと思います。そこでこんなことを言うのも何ですが、私達平成十一年採用まではほとんどが乗務員に進めました。しかし、十二年採用は約半数が駅係員として残るようです。またこの五年間で社員の大幅削減も計画されているとのことですが、これは五〇オくらいの社員の多くが定年を迎え、新入社員を増やさないことに対応するそうです。また会社としても鉄道業では少子高齢化に伴い増収が見込めないため、生活総合サービスに力を入れていくようです。そのため少々道のりが厳しくなってきました。

ここに挙げたのはほんの一部で、他にも

国鉄時代の風潮が残っていたりいろいろなあります。ただこれからのいろいろな目標に向かって行く皆さん、絶対にあきらめないで下さい。私達の会社は、やりたい仕事は努力次第で何でも出来ます。そして変えられます。最後に私もそうです。「夢、追っています」皆さんも頑張ってください。
(東日本旅客鉄道株
横浜支社国府津車掌区勤務)

在校生特別寄稿

「責務を果たす」ということ

第二十一回東交祭実行委員長

藤田 顕久

昨年六月、学生会会長から「東交祭実行委員長をやってみないか。」と持ちかけられた。実は、中学・高校と部長(委員長)を経験したことがあるのだが、その時は思うようにメンバーをまとめられなかった、

会計報告書

(平成11年4月1日~平成12年3月31日)

平成12年4月1日

東京交通短期大学 同窓会

収入の部			支出の部		
項目	金額(¥)	適用	項目	金額(¥)	適用
繰越金	771,974		集会費	91,350	幹事会(H11.10.2)
会費	530,000	¥5,000×106名	事務費		
臨時会費	55,000		通信費	304,226	会報第24号発送代,東交祭案内等郵便代
雑収入	8,465	会員からのご寄付,預金利息	渉外費	69,480	会長賞記念品代,卒業式・東交祭ご祝儀他
			会議費	14,490	幹事打合せ
			雑費	2,362	事務消耗品費
			繰越金	883,531	
収入計	1,365,439		支出計	1,365,439	

この報告書は検討の結果、その収支は正当かつ妥当であることを認めます。

平成12年4月1日 会計監査 堀 丈夫、村越 輝夫

という苦しい出がある。一度は断つたものの、学生会員の推薦により引き受けることになった。東交祭のイロハを全く知らない私にとって、何からはじめるべきか全くわからなかった。そこで、学生会長やOBの助言をいただきながら、副委員長以下、幹部メンバーをまとめ活動をしていた。

予算の決定で二転三転し行き詰まったが、準備期間が始まる前までにはようやく決まり、各団体とも準備に取りかかった。

当日になって私が驚いたのは、食販団体の経営努力である。呼び込みをする一方で、高校の文化祭来場者にも訪れて欲しいと校門で宣伝をしていたのだ。私も現場でほとんど受付や警備に回っていた。働いたが、これほど積極的に頑張っている学生を見たのは初めてだったかもしれない。

三日目に校内で催し物を行うこととなり、当初、近隣の部活から「音量が高い」という苦情が出ていたものの、終了後はその部活に客が入るといった結果につながった。

最終的には、どの団体もほぼ満足という感じであったが、私自身学ばされた点もあつた。もう少し早く計画から取り組んでいたら、今より素晴らしい東交祭が出来ていたのではないか、と思うのだ。数年先思い出

すとき「ここで苦労したな」「ここは良かったな」と振り返ることが出来たら良いかもしれない。
(二年次在学中)

学生会

学生会会長 小野 浩司



私の所属しています「学生会」について、皆さんに改めてご紹介したいと思います。まず、

発足のきっかけになったのは、催し物等の企画、準備、運営が主に鉄道研究部中心で事が運んでしまったことです。

催し物に出席している部活、ゼミの人達にも何か仕事を与えて、少しでも平等に仕事が行き渡るようにしたいということや、学生と先生方、学校との会議の場を設け、学生の意見も聞いてもらいたいという思いで誕生したのが、「この「学生会」なのです。

昨年の学生会活動報告を致します。昨年は、はじめて学生会を設立したため準備が

不十分でしたが、東交祭の企画・運営、オンラインキャンパスでの学生相談、交通見学会の計画案の会議、学内施設の改善案の会議、式典への出席などをしました。なかでも東交祭は、全役員が実行委員として働き、いくつかの問題がありました。何とか解決し、本年度の東交祭も無事終了しました。ご来場いただきましたOBの皆様、当日ご来場いただけなかった皆様、来年度もよりよい文化祭にしていくよう頑張ります。

最後に、いよいよ二十一世紀が始まり、来年度は新入生も入ってきます。次期学生会も昨年の失敗を教訓にし、躍進していきますので是非ご声援下さい。
(二年次在学中)

編集後記

今年の雪は平成一〇年以來のどか雪でした。その年の編集後記に「京王電鉄だけが雪への対策が万全であり本当のサービスとは何か改めて知らされた」という新聞記事を載せた。今年の京王は、「三月のダイヤ改正にあわせて女性専用車両を本格実施する」そうである。大雪が降ると何かと話題を提示する京王電鉄である。
(編集委員N)